

第 2 章

教科別調査結果の概要及び指導上の改善ポイント

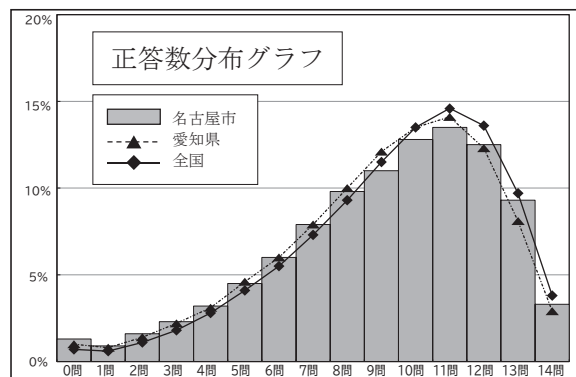
第2章 教科別調査結果の概要及び指導上の改善ポイント

1 教科別調査結果の概要

(1) 小学校「国語」

① 領域別調査結果の概況

右は正答数の分布を表したグラフである。正答数が14問中8問以下の児童の割合は全国より多く、9問以上正答した児童の割合は少ない。下の表は、それぞれの問題の概要、出題の趣旨、学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式、正答率、無解答率を示したものである。



【小学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			知識及び技能 思考力・判断力・表現力等						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	本市	愛知県(公立)	全国(公立)	本市	愛知県(公立)	全国(公立)
			(1)言葉の特性や使い方に関する事項	(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項	A聞くこと・話すこと	B書くこと	C読むこと												
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報について理解しているかどうかをみる		5・6ア					○			○			64.0	63.3	64.7	3.3	2.6	1.8
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝えられるように書き表しできるかどうかをみる					5・6エ		○				○		24.8	24.3	26.7	8.8	8.5	7.1
1三(1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ						○				○		53.2	47.9	52.8	5.8	6.2	4.8
1三(1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)		5・6エ						○				○		65.1	70.6	72.6	10.5	8.4	6.7
1三(2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものと適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6ウ						○			○			90.4	91.8	93.1	1.9	1.4	1.0
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5・6カ						○			○			79.0	77.7	79.8	3.5	2.7	2.0
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる						3・4ウ	○			○			89.5	89.0	90.0	2.3	1.8	1.2
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6ウ	○			○			66.6	65.3	67.4	2.7	2.0	1.4
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6イ						○			○			62.1	60.6	62.0	2.9	2.2	1.6
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができることをまとめて書く	文章を読んで理解した内容に基づいて、自分ができることをまとめることができるかどうかをみる					5・6オ		○				○		54.1	53.2	56.2	10.9	9.7	8.5
3一(1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しな伝聞授と必要なことを自分自身で中心を問うことができるかどうかをみる				3・4エ			○			○			71.3	71.6	73.6	6.6	4.7	3.7
3一(2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する					3・4エ			○			○			70.5	70.9	74.0	7.3	5.2	4.1
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6エ			○				○		63.0	67.2	70.2	20.5	16.2	14.3
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5・6キ						○			○			54.5	55.8	57.6	15.5	12.0	9.5

② 3年間の調査結果の比較（令和3年度より新学習指導要領対応）

【小学校 国語】

区分		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率
全体		62	64.7	64	65.6	65	67.2
学習指導要領の内容	話すこと・聞くこと	76.9	77.8	65.3	66.2	68.3	72.6
	書くこと	53.7	60.7	46.1	48.5	24.8	26.7
	読むこと	46.9	47.2	68.3	66.6	70.1	71.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項						
	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.0	68.3	63.9	69.0	68.5	71.2
	情報の扱い方に関する事項					63.1	63.4
	我が国の言語文化に関する事項			75.5	77.9		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
	言語についての知識・理解・技能						
	知識・技能	64.0	68.3	65.8	70.5	66.9	68.9
	思考・判断・表現	59.9	62.1	62.0	62.0	62.8	65.5
	主体的に学習に取り組む態度	－	－	－	－	－	－
問題の形式	選択式	69.5	71.7	71.6	71.8	72.0	73.6
	短答式	66.9	70.6	56.0	63.6	59.2	62.7
	記述式	35.4	40.2	50.1	51.3	47.3	51.1

③教科に対する学習意欲に関する調査結果（児童質問紙より）

（％）

小学校 国語		R4 名古屋		R4 全国		R5 名古屋		R5 全国	
好きですか	当てはまる	19.1	50.9	23.4	59.2	19.6	54.2	23.8	61.5
	どちらかといえば	31.8		35.8		34.6		37.7	
大切だと思いますか	当てはまる	65.7	92.0	69.3	93.3	66.8	93.7	69.1	94.2
	どちらかといえば	26.3		24.0		26.9		25.1	
よく分かりますか	当てはまる	32.8	78.8	39.5	84.0	33.9	81.9	40.4	85.7
	どちらかといえば	46.0		44.5		48.0		45.3	
役に立つと思いますか	当てはまる	62.3	90.4	65.5	91.8	60.7	91.8	64.4	92.8
	どちらかといえば	28.1		26.3		31.1		28.4	
平均			78.0		82.1		80.4		83.6

楽しみながら学びの質を高める授業づくりへ

〈全体の正答率について〉

本市の平均正答率は、全体として全国をやや下回る結果（本市 65％／全国 67.2％）になっている。また、昨年度同様、全設問において無解答率が全国を上回っている。記述式の平均正答率も、昨年度同様全国に比べて低く（本市 47.3％／全国 51.1％）、継続的な課題である。

〈児童の実態に基づく授業づくり〉

昨年度同様「解答時間が十分でしたか」に対する回答「やや足りなかった（本市 35.5％／全国 27％）」、「全く足りなかった（本市 9.9％／全国 5.9％）」といった結果を踏まえて、「何を問われているのか分からない」「どのように答えてよいか分からない」「自信がない」等、児童の実態の把握に努めたい。

すべての記述式の解答類型の結果からは、「グラフから分かること」「カードから分かること」「カードをもとにして書くこと」、「資料から分かったこと（運動と食事の両方）」「分かったことをもとに、これから自分ができそうなこと」、「【インタビューの様子】から」二人の思いについて分かったこと」等、書く内容に関する複数の条件を満たして答えることに課題がある。「Aさんの言葉を取り上げて答えましょう」「AとBの資料から分かったことをそれぞれ区別して書きましょう」等、目的や意図に応じてどのように答えるのか発問・指示を具体的かつ明確にして学習活動の充実に取り組みたい。互いの考えを交流し、共通点や相違点を整理する際には、ICT機器を効果的に活用して、その効果を実感させながら言語活動の質を高めたい（「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う（「当てはまる」本市 62.8％／全国 67.5％）」）。

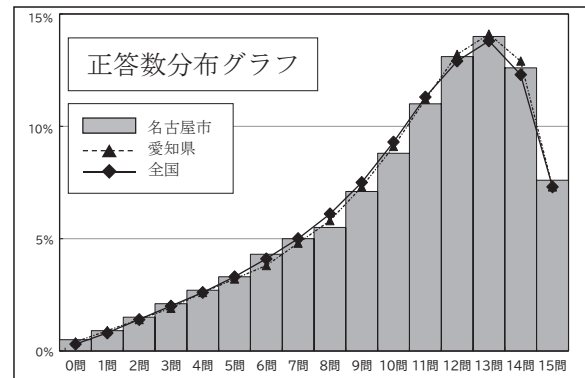
〈児童質問紙から〉

「国語の勉強は好きですか」は、やや改善しているものの、全国に比べて昨年度同様非常に低い結果（「当てはまる」＋「どちらかといえば当てはまる」本市 54.2％／全国 61.5％）であった。「国語の授業の内容はよく分かりますか」は、全国に比べて昨年度同様低い結果（「当てはまる」＋「どちらかといえば当てはまる」本市 81.9％／全国 85.7％）である。8割を越える児童が授業の分かりやすさを実感していることを踏まえ、さらに、授業のまとめ・振り返りの場面で、児童自身が自ら学びの広がりや深まりを自覚することができると授業づくりに取り組みたい。「自分と違う意見について考えるのは楽しい（「当てはまる」本市 37.1％／全国 32％）」「学校に行くのは楽しい（「当てはまる」本市 53.9％／全国 49.8％）」といった結果から、児童が楽しく取り組める要素を学校・学級ごとにさらに詳しく分析し、授業の中に取り込むことで、国語の勉強を楽しみ、好きになれるようなきっかけづくりを工夫したい。

(2) 中学校「国語」

① 領域別調査結果の概況

右は正答数の分布を表したグラフである。全国とほぼ同じような状況である。下の表は、それぞれの問題の設問の概要、出題の趣旨、学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式、正答率、無解答率を示したものである。



【中学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式	本市	愛知県(公立)	全国(公立)	本市	愛知県(公立)	全国(公立)
			(1) 言語に関する事項	(2) 情報の扱いに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと									
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したのとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる				1ア			○		○	85.6	86.7	87.5	0.1	0.1	0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1ア						○		○	65.2	64.4	65.1	0.2	0.1	0.2
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したのとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に含ませて効果的に質問することができるかどうかをみる				1エ			○		○	75.4	76.3	76.6	0.3	0.2	0.2
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1エ			○		○	78.3	80.3	82.5	13.2	12.2	10.8
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1ウ						○		○	91.8	90.8	91.1	0.2	0.2	0.2
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したのとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる				2エ			○		○	64.1	64.3	63.0	0.5	0.4	0.4
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる				1ア			○		○	74.0	74.0	74.2	0.4	0.3	0.3
2四	自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にし、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる		2エ		2オ			○		○	63.4	65.4	67.5	4.1	3.9	3.9
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1エ			○		○	57.6	56.6	54.3	0.6	0.6	0.6
3二	漢字を書く(おし量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○		○	45.8	44.5	43.9	12.7	11.7	10.7
3三	「[判じ絵]とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2ア						○		○	63.4	63.5	61.8	2.1	1.8	2.1
3四	「[判じ絵]の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「[判じ絵]」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ			○		○	73.7	74.1	72.1	10.0	9.5	10.2
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(ひひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる		1ア					○		○	78.7	83.3	82.5	3.9	3.5	3.6
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと)	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる		2イ					○		○	76.6	76.9	74.1	4.9	4.6	4.8
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる				1エ			○		○	51.2	50.5	50.0	21.2	20.8	20.7

② 3年間の調査結果の比較（令和4年度より新学習指導要領対応）

【中学校 国語】

区分		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率
全体		65	64.6	69	69.0	70	69.8
学習指導要領の内容	話すこと・聞くこと	78.5	79.8	62.2	63.9	79.8	82.2
	書くこと	56.9	57.1	42.8	46.5	65.7	63.2
	読むこと	48.6	48.5	68.4	67.9	63.2	63.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.1	75.1				
	言葉の特徴や使い方に関する事項			72.4	72.2	68.8	67.5
	情報の扱い方に関する事項			42.8	46.5	64.3	63.4
	我が国の言語文化に関する事項			71.4	70.2	72.9	74.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	54.6	56.0				
	話す・聞く能力	78.5	79.8				
	書く能力	56.9	57.1				
	読む能力	48.6	48.5				
	言語についての知識・理解・技能	76.1	75.1				
	知識・技能			69.2	69.0	69.3	69.4
	思考・判断・表現			61.0	62.3	69.3	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			—	—	—	—
問題の形式	選択式	64.4	63.9	74.1	73.7	73.4	73.1
	短答式	75.1	74.4	71.4	70.3	66.1	65.6
	記述式	54.6	56.0	55.0	57.4	66.6	68.0

③教科に対する学習意欲に関する調査結果（生徒質問紙より）

（％）

中学校 国語		R4 名古屋		R4 全国		R5 名古屋		R5 全国	
好きですか	当てはまる	24.9	61.0	24.2	61.9	23.2	58.5	23.6	61.4
	どちらかといえば	36.1		37.7		35.3		37.8	
大切だと思いますか	当てはまる	63.6	93.3	63.1	93.2	58.8	91.9	60.0	92.4
	どちらかといえば	29.7		30.1		33.1		32.4	
よく分かりますか	当てはまる	32.9	81.8	31.9	81.2	29.2	78.8	30.4	80.0
	どちらかといえば	48.9		49.3		49.6		49.6	
役に立つと思いますか	当てはまる	55.3	89.1	55.6	89.7	50.5	87.5	52.3	88.7
	どちらかといえば	33.8		34.1		37.0		36.4	
平均			81.3		81.5		79.2		80.6

学習過程に着目して言語活動の質を高める授業づくりへ

〈全体の正答率について〉

本市の平均正答率は、全体としては全国と同程度の結果（本市 70％／全国 69.8％）になっている。いくつかの設問において無解答率が全国を上回っている。記述式の平均正答率は、昨年度同様全国に比べてやや低く（本市 66.6％／全国 68％）、継続的な課題である。

〈児童の実態に基づく授業づくり〉

昨年度同様「解答時間は十分でしたか」に対して「時間が余った」（本市 42.4％／全国 33.7％）と感じている生徒が全国に比べて非常に多い。普段の授業においては、「できた」「終わった」と感じて、さらによりよい取り組みとなるように粘り強く自らの学びを調整する姿勢を育みたい。

記述式では、特に「読むこと」の正答率（②四：本市 63.4％／全国 67.5％、④三：本市 51.2％／全国 50％）に着目したい。②四では、複数の資料を読み、着目したところを明らかにして読書経験や知識にふれながら自分の意見をまとめること、④三では、古典の〈原文〉と〈現代語訳〉とを読み比べ、具体的な表現を取り上げながら、どのように工夫されているかをまとめることが求められている。単純な一問一答や漠然と自分の考えをまとめる活動ではなく、「～に着目しながら／～を取り上げながら／自分の経験や知識に照らし合わせながら／友達の見解との共通点・相違点を整理しながら」等、何をどのように考えたのか分かるように考えを整理し、思考の過程を可視化する工夫を取り入れたい。「1、2年のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している（「当てはまる」＋「どちらかといえば当てはまる」本市 71.5％／全国 62.1％）」という結果からは、言語活動に取り組む際に生徒自身が表現の仕方を工夫していることがうかがえる。こうした実態を踏まえ、より目的や意図に即した言語活動へと質を高めたい。また、そのような言語活動において、情報の取捨選択や共通点・相違点の整理、加筆・修正等、効果的に ICT 機器を活用したい（「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つ（「当てはまる」本市 48.4％／全国 58.7％）」

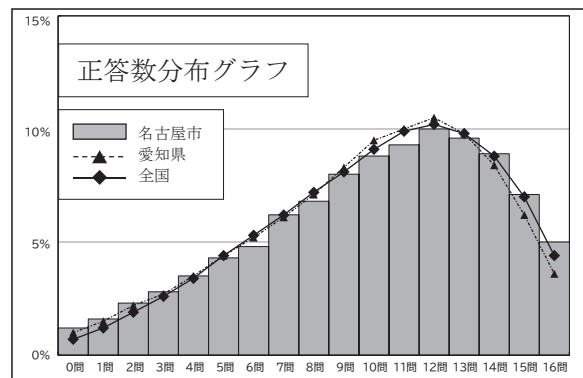
〈生徒質問紙から〉

教科に対する学習意欲について、肯定的な回答は 79.2％で、昨年度同様（本市 81.3％／全国 81.5％）、全国と同程度の結果となった。「国語の勉強は好きですか」に対する回答「当てはまる」＋「どちらかといえば当てはまる」（本市 58.5％／全国 61.4％）の割合は、小学校国語児童質問紙の結果（本市 54.2％／全国 61.5％）と比べて中学校段階においてやや増えている。言語活動の質を高め、学びが広がり深まっていることを実感させ、もっと友達と話してみたい、もっと資料を調べてみたいといった主体的な学びへ促したい。

(3) 小学校「算数」

① 領域別調査結果の概況

右は正答数の分布を表したグラフである。
全国並の正答率であり、16問中14問以上正答した児童の割合は全国より多い。下の表は、それぞれの問題の概要、出題の趣旨、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、正答率、無解答率を示したものである。



【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	本市	愛知県(公立)	全国(公立)	本市	愛知県(公立)	全国(公立)
1(1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変化する二つの数量の関係を、表の読み取り、表の関係をたいてみる				4(1) 7(7)		○				○		93.8	93.8	93.5	1.2	1.0	0.8
1(2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変化する二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを適切に表しているかどうかをみる				5(1) 1(7)		○				○		88.6	88.0	88.5	1.2	1.2	1.0
1(3)	椅子4脚の重さが7kgであることの求め方と答えを書く	伴って変化する二つの数量が比例しているかどうかを求める				5(1) 1(7) 5(2) 1(7)		○				○		58.1	56.2	55.5	4.5	4.1	3.4
1(4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法による計算ができるかどうかをみる	3(3) 7(7)					○				○		79.5	80.4	80.8	1.7	1.6	1.2
2(1)	テーブルを2本の直線で切ったときの4角形の名前を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) 7(7)				○			○			55.5	54.5	59.8	1.4	1.1	0.7
2(2)	テーブルを折ったり切ったりしてできた4角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		2(1) 7(7) 4(1) 7(7)				○			○			84.5	84.9	87.2	4.5	4.2	2.9
2(3)	切った開いた三角形を正三角形にするために、Aの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3(1) 7(7) 5(1) 7(7)				○			○			25.4	22.5	24.9	5.1	4.6	3.7
2(4)	テーブルを直線で切ったときの2つの三角形の面積の大小について、面積の大小を選び、選んだ理由を書く	高さが等しい三角形について、底辺の長さや面積の大小を判断し、理由を述べてみる		5(3) 1(7)				○			○			20.4	17.2	20.8	5.5	4.9	4.0
3(1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める式と答えを記入する	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を用いて計算できるかどうかをみる	4(6) 1(7)					○			○			69.3	69.4	70.3	2.1	1.8	1.4
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さを求める式と答えを記入する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求めたい条件に当てはまる結果かどうかを判断する	3(5) 7(7) 4(4) 7(7) 1(7)					○			○			59.9	59.0	56.7	5.2	4.7	4.0
3(3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した式を用いたり、分配法則を用いたりして計算できるかどうかをみる	4(6) 7(7) 4(7) 7(7)					○			○			73.4	73.8	72.4	3.6	3.1	2.5
3(4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数) $\div$ (1位数) の筆算について、図を基に、段階の商の意味を考えるとできるかどうかをみる	3(4) 1(7) 4(3) 7(7)					○			○			45.8	45.1	47.6	5.2	4.7	3.9
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる				5(3) 7(7)		○			○			46.5	43.5	46.0	3.5	2.8	2.4
4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取るかどうかをみる	4(2) 7(7)				3(1) 7(7)	○			○			75.4	75.4	75.7	5.6	4.8	4.3
4(3)	二つのグラフから、30日以上の運動をした人の割合が1日1人ずつ増えていくことを書く	示された二つのグラフと、複数の棒グラフを組み合わせて記述できるかどうかをみる				3(1) 7(7) 1(7)		○			○			54.7	55.0	56.2	16.2	14.6	13.8
4(4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠を選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取るかどうかをみる				4(1) 7(7)		○			○			62.4	62.8	64.6	6.2	5.2	4.9

② 3年間の調査結果の比較

【小学校 算数】

区分		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率
全体		71	70.2	63	63.2	62	62.5
学習指導要領の領域	数と計算	64.0	63.1	70.3	69.8	67.2	67.3
	図形	59.9	57.9	63.8	64.0	46.5	48.2
	測定	75.5	74.8	—	—	—	—
	変化と関係	76.5	75.9	50.9	51.3	71.8	70.9
	データの活用	74.8	76.0	69.7	68.7	64.2	65.5
評価の観点	知識・技能	74.9	74.1	68.1	68.2	66.3	67.2
	思考・判断・表現	64.9	65.1	56.9	56.7	56.7	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	—	—	—
問題の形式	選択式	75.6	76.0	51.5	51.8	55.9	57.7
	短答式	76.7	75.8	76.1	76.5	74.4	74.7
	記述式	53.6	53.0	61.4	60.2	48.3	47.3

③教科に対する学習意欲に関する調査結果（児童質問紙より）

（％）

小学校 算数		R 4 名古屋		R 4 全国		R 5 名古屋		R 5 全国	
好きですか	当てはまる	35.4	60.3	36.2	62.5	35.0	61.0	34.8	61.4
	どちらかといえば	24.9		26.3		26.0		26.6	
大切だと思いますか	当てはまる	75.7	93.5	76.6	94.2	76.9	94.8	75.3	94.2
	どちらかといえば	17.8		17.6		17.9		18.9	
よく分かりますか	当てはまる	44.0	79.1	45.6	81.2	45.7	81.7	45.2	81.2
	どちらかといえば	35.1		35.6		36.0		36.0	
役に立つと思いますか	当てはまる	73.5	92.8	74.7	93.3	73.2	93.8	73.0	93.3
	どちらかといえば	19.3		18.6		20.6		20.3	
平均			81.4		82.8		82.8		82.5

児童の主体的な学びを大切にしたい理解を深める授業づくりへ

〈全体の正答率について〉

今年度も全部で16の問題が出題された。正答率が全国より高い問題は7問だった。問題の内容も対象となる児童も年度により異なるため、年度間で正答率を比較して、学力が上がったか下がったかを判断することは難しい。あえて全国の前年度を基準とすると、ほぼ昨年度と同様の傾向であるのではないかと推測される。

「学習指導要領の領域」ごとの正答率について見ると、「図形」と「データの活用」が全国の前年度よりやや低かった。「評価の観点」、「問題形式」については全国の前年度との顕著な違いはみられなかった。

〈児童の実態に基づく授業づくり〉

本市の前年度については前述のような傾向が見られたが、昨年度と同様、今年度も全ての設問で無解答率が全国より高かった。特に、解答を選択肢から選択する設問においても無解答の児童がいることは課題である。算数に対する学習意欲の調査結果を踏まえ、選択問題の無解答の状態は、問題に取り組むことさえも諦めている児童の存在を暗示し、セリグマンの「学習性無力感」の状態にある可能性が考えられる。

このことを踏まえた授業改善の条件として、①児童の知的好奇心を刺激し、解決の必要感のある課題の設定（児童自身による課題の設定）、②児童が考え、試行錯誤をする場と時間の保障（個別最適な学び）、③児童の解決に向けての取組への適切な支援（個別最適な学び）、④よりよい解決方法を考えるための場と時間の保障（協働的な学び）、⑤自己効力感を感じることができ振り返り、が必要である。

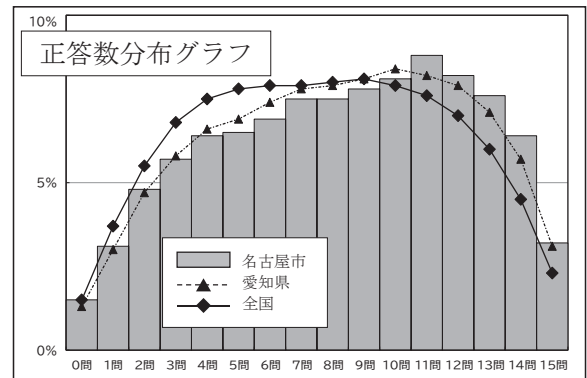
〈児童質問紙から〉

算数に対する学習意欲に関する調査結果は、上記の表に示す通りである。本市において、今年度の設問に対する肯定的評価は、全国に比べて3つの設問で高くなっているが、その差はわずかであり、本市と全国はほぼ同じような状況であるといえる。4つの設問の回答状況を見ると、算数の学習は「大切だ」と「役に立つ」と思う割合が9割以上、「よく分かる」割合が約8割、「好き」だと思う割合が約6割となっている。このような回答状況から、「算数の学習は、将来、『役に立つ』から『大切だ』と思いながらも、学習内容が『よく分かる』とまでは言い切れず、『好き』とまでは言えない児童の姿」が浮かび上がる。「当てはまる」と回答した児童の割合のみに着目すると、このことはより一層明確になる。

(4) 中学校「数学」

① 領域別調査結果の概況

右は正答数の分布を表したグラフである。全国並の正答率であり、16問中10問以上正答した生徒の割合は全国より多い。下の表は、それぞれの問題の概要、出題の趣旨、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、正答率、無解答率を示したものである。



【中学校 数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	本市	愛知県(公立)	全国(公立)	本市	愛知県(公立)	全国(公立)
1	-5、0、3、4.7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1) 7(7)				○			○			53.7	51.9	46.1	0.1	0.1	0.1
2	$12(x/4+y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	2(1) 7(7)				○				○		81.5	82.9	80.5	4.2	3.4	4.0
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる		1(2) 7(7)			○			○			35.0	34.0	30.4	0.6	0.6	0.8
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			1(1) 7(1)		○			○			45.4	45.4	42.8	0.5	0.4	0.5
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1) 7(7)	○				○		50.8	49.6	46.1	11.5	10.4	11.0
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	1(1) 7(7)				○				○		90.5	90.3	88.9	2.2	2.0	2.4
6(2)	はじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) 1(1)					○			○		62.1	61.5	58.8	9.5	9.5	10.6
6(3)	はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	2(1) 1(1)					○			○		43.3	42.9	40.9	23.4	23.4	24.7
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				2(1) 7(7)	○				○		72.0	72.6	65.7	5.2	4.6	5.6
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) 1(7)		○			○		36.4	35.8	33.6	21.4	20.7	22.8
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる				2(1) 7(7) 1(7)		○			○		61.9	60.4	57.5	7.6	7.7	8.6
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) 7(1)		○			○		65.4	65.6	61.7	0.9	0.8	1.1
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスパート地点からおおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				2(1) 1(1)		○			○		47.7	46.2	42.8	13.3	12.6	13.2
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	2(1) 1(7)					○			○		35.1	32.7	32.1	25.8	26.4	24.7
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	2(2) 7(1) 1(7)				○				○		43.7	41.9	37.0	12.2	11.8	14.2

② 3年間の調査結果の比較

【中学校 数学】

区分		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率
全体		58	57.2	55	51.4	55	51
学習指導要領の領域	数と式	67.3	64.9	62.0	57.4	66.2	63.0
	図形	52.2	51.4	47.3	43.6	38.0	33.2
	関数	56.9	56.4	46.2	43.6	55.1	51.2
	資料の活用	54.9	53.8				
	データの活用			58.7	57.1	53.1	48.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	－	－				
	数学的な見方や考え方	43.0	41.1				
	数学的な技能	80.6	77.7				
	数量や図形などについての知識・理解	65.4	65.6				
	知識・技能			64.5	59.9	60.0	55.7
	思考・判断・表現			38.2	36.2	44.9	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			－	－		
問題の形式	選択式	52.6	52.4	57.0	52.6	49.9	45.3
	短答式	71.9	70.5	70.5	65.7	66.7	62.6
	記述式	36.6	35.0	38.2	36.2	44.9	41.6

③教科に対する学習意欲に関する調査結果（生徒質問紙より）

（％）

中学校 数学		R 4 名古屋		R 4 全国		R 5 名古屋		R 5 全国	
好きですか	当てはまる	32.0	59.4	29.9	58.1	29.7	57.1	29.1	56.7
	どちらかといえば	27.4		28.2		27.4		27.6	
大切だと思いますか	当てはまる	53.5	87.7	52.1	86.6	49.9	85.7	49.8	85.0
	どちらかといえば	34.2		34.5		35.8		35.2	
よく分かりますか	当てはまる	37.7	77.7	36.1	76.2	33.6	72.4	33.9	73.3
	どちらかといえば	40.0		40.1		38.8		39.4	
役に立つと思いますか	当てはまる	39.4	75.4	40.7	76.5	36.6	75.5	38.8	75.8
	どちらかといえば	36.0		35.8		38.9		37.0	
平均			75.1		74.4		72.7		72.7

生徒の主体的な追究活動を促す授業づくりへ

〈全体の正答率について〉

全部で15の問題が出題され、全ての問題で全国の正答率を上回っていた。また11の問題で愛知県の正答率を上回っていた。さらに問題形式別にみると、[短答式]の平均正答率が66.7％と概ね良好であるのに対し[記述式]は44.9％にとどまっており、全国や愛知県の傾向と同様に[記述式]の問題に課題がみられた。無解答率をみても、[選択式][短答式]に比べると[記述式]の問題の無解答率が高い状況であった。次に、評価の観点でみると、〈知識・技能〉の平均正答率60％に比べると、〈思考・判断・表現〉の平均正答率は44.9％と低い状況であり、数学的な思考力や表現力に課題がみられている。

全体的にみると、問題解決の方法や判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、問題解決の過程を振り返って統合的・発展的に考察したりすることに課題がみられた。

〈生徒の実態に基づく授業づくり〉

【数と式】では、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がみられた。そのため、事柄が成り立つ理由について構想を立てて説明する活動を重視した授業づくりを工夫したい。【図形】では、条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がみられた。そのため、証明を振り返り、図形の性質について論理的に考察する活動を重視した授業づくりを工夫したい。【関数】では、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がみられた。そのため、表、式、グラフなどを用いて、それらをどう用いたかについて数学的に説明する活動を重視した授業を充実させたい。【データの活用】では、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられた。そのため、箱ひげ図やヒストグラムなどを根拠として、判断の理由を数学的に説明する活動を充実させる必要がある。

〈生徒質問紙から〉

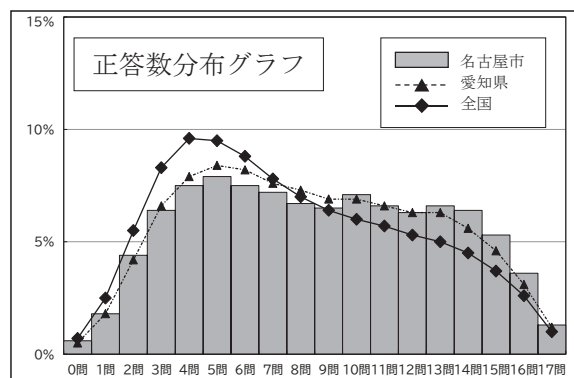
生徒の数学に対する学習意欲に関する調査結果をみると、4つの設問のうち「数学の勉強は大切だと思いますか」に対しては85.7％の生徒が肯定的な回答をしているのに対し、「数学の勉強が好きですか」に対しては肯定的な回答が57.1％にとどまっていた。また「数学の授業の内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は72.4％であり、昨年度の同一設問の結果と比較して5.3ポイント低くなっている。

こうした回答結果から、生徒は〈数学の学習の重要性〉に対しては高い認識をもつ一方、〈数学の学習に対する関心・意欲〉の面については昨年度に引き続き課題がみられた。また、〈数学の学習内容の理解や定着〉を深めるための指導についてもさらなる工夫と改善が求められる。

(5) 中学校「英語」

① 領域別調査結果の概況

右は正答数の分布を表したグラフである。全国よりやや高い状況である。17問中10問以上正答した生徒の割合が全国より多い。下の表は、それぞれの問題の設問の概要、出題の趣旨、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、正答率、無解答率を示したものである。



【中学校 英語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと「やり取り」	(4) 話すこと「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	本市	愛知県(公立)	全国(公立)	本市	愛知県(公立)	全国(公立)
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			84.4	84.4	79.0	0.2	0.1	0.1
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			70.5	69.7	64.4	0.3	0.2	0.2
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			59.4	57.7	49.8	0.2	0.2	0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			66.6	64.8	61.1	0.3	0.2	0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			46.4	44.7	41.2	0.4	0.3	0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ						○		○			59.6	59.2	54.8	0.5	0.5	0.4
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			60.5	59.9	56.0	0.4	0.3	0.3
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		○				○			○			68.6	67.9	64.5	0.4	0.3	0.3
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア					○		○			39.5	37.6	35.9	0.3	0.2	0.3
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			64.8	64.8	59.8	0.4	0.3	0.3
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる		イ					○		○			36.4	35.8	34.7	0.8	0.6	0.7
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる		ウ					○		○			62.2	62.6	56.1	0.7	0.6	0.8
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ		○			○		22.1	20.6	19.5	29.7	29.4	29.3
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○		47.4	45.7	40.4	6.3	5.6	6.6
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○		27.3	23.5	20.9	10.4	9.7	10.9
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○		38.1	35.4	29.0	22.9	22.7	24.5
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○			○		9.1	8.1	7.4	22.9	22.6	21.4

② 前回の調査結果との比較（令和4年度より新学習指導要領対応）

【中学校 英語】

区分		平成31年度		令和5年度	
		本市正答率	全国正答率	本市正答率	全国正答率
全体		58	56	51	45.6
学習指導要領の領域	聞くこと	69.2	67.9	64.5	58.4
	話すこと（参考値）		30.8		12.4
	読むこと	57.4	55.6	55.3	51.2
	書くこと	49.9	45.8	28.8	23.4
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度				
	外国語表現の能力	2.5	1.8		
	外国語理解の能力	46.4	44.7		
	言語や文化についての知識・理解	67.6	64.7		
	知識・技能			57.9	51.5
	思考・判断・表現			42.8	38.8
	主体的に学習に取り組む態度				
問題形式	選択式	72.8	71.4	59.9	54.8
	短答式	51.4	45.2	37.6	30.1
	記述式	8.1	6.8	15.6	13.5

③教科に対する学習意欲に関する調査結果（生徒質問紙より）

（％）

中学校 英語		H 31 名古屋		H 31 全国		R 5 名古屋		R 5 全国	
好きですか	当てはまる	30.9	56.2	29.0	56.0	27.1	52.1	25.2	51.9
	どちらかといえば	25.3		27.0		25.0		26.7	
大切だと思いますか	当てはまる	61.8	86.6	58.9	85.4	63.5	89.1	61.6	88.0
	どちらかといえば	24.8		26.5		25.6		26.4	
よく分かりますか	当てはまる	31.3	66.6	29.5	66.0	30.2	64.7	28.0	63.9
	どちらかといえば	35.3		36.5		34.5		35.9	
役に立つと思いますか	当てはまる	63.0	86.8	60.7	85.4	64.5	88.6	62.4	87.5
	どちらかといえば	23.8		24.7		24.1		25.1	
平均			74.1		73.2		73.6		72.8

生徒が主体的・協働的に取り組める授業づくりへ

〈全体の正答率について〉

本市の平均正答率は51％で全国平均（45.6％）を上回る結果となった。領域別にみても地域別に公表されていない「話すこと」を除いて、全ての領域で全国を上回っている。前回の平成31年度調査結果と比較すると、本市の平均正答率は7ポイント低くなっている。

〈生徒の実態に基づく授業づくり〉

どの領域でも4～6ポイント程度全国を上回っているが、以下のような課題もみられるため、学校や生徒の実態に応じた授業づくりを進めていきたい。

- ・「聞くこと」の領域の平均正答率は、64.5％と比較的高いが、「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る」問題（選択式・思判表）の正答率が5割以下と低い。目的・場面・状況を明確にして聞き取る練習を取り入れたい。
- ・「読むこと」の領域の平均正答率は、55.3％であったが、「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る」、「短い文章の概要を捉える」問題（選択式・思判表）の正答率が4割以下と低い。目的・場面・状況を明確にして読んだり、段落から主題文を選択したり、段落間の関係を明らかにしながら読む練習を取り入れたい。
- ・「書くこと」の領域の平均正答率は、28.8％と他の領域よりもかなり低い。その中でも「事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」問題（記述式・思判表）の正答率は9.1％と低く、無回答の割合も高い。短文英訳練習とともに、内容・文法の一貫性を考えながらまとまった量の文章を書く練習を取り入れたい。
- ・「話すこと」の領域の平均正答率（国公立）は、全国平均でみると1割強と他の領域よりもかなり低く、全国的な課題となっている。特に、「発表」の正答率が低い。聞き取った内容をもとに限られた時間の中で自分の意見をまとめ、発表する練習を取り入れたい。

〈生徒質問紙から〉

全体に全国平均よりやや高い。前回の調査と比較すると、「英語の勉強は大切」、「英語は役に立つ」が高く、約9割となっている一方で、「英語の勉強が好き」と「英語の授業がよく分かる」が低くなり、5～6割となっている。新学習指導要領で扱う語彙や文法が難化していることと関連している可能性があるが、英語学習の大切さや有用性を自覚しているものの、授業が十分に理解できずに満足していない生徒の姿が表れているともいえる。授業中、日常的に英語を使い、意味あるやり取りを行うとともに、一人一台端末環境を利用し、協働学習を有効に進めるなどして、生徒主体の授業となるように工夫をしたい。